

- ScholarOne Manuscripts User Conference 2015 in リスボン 参加レポート
- 国際科学編集者会議 (CSE) 2015 参加レポート
- 「第29回日本医学会総会 2015 関西」に出展しました

## ScholarOne Manuscripts User Conference 2015 in リスボン

# インターフェイスの刷新を発表 今秋リリース予定！ユーザビリティが 飛躍的に向上

ScholarOne Manuscripts™ (以下S1M) の開発元であるトムソン・ロイターが世界中のS1M利用学協会、出版社、販売代理店に向けて毎年開催している「ScholarOne Manuscripts User Conference」が今年は4月15～16日にポルトガルのリスボンで開催されました。今年はアメリカおよびヨーロッパの学協会と出版社を中心に合計約90名、弊社からは2名が参加しました。

まず、昨年のS1M全体の動向を振り返り、世界で運用されている全サイトでの統計が報告されました。運用サイト数は6,000以上、投稿論文数は230万以上と、順調に利用者が増えているようです。また、その中から抽出したデータによると、採択率は23% (52.8万論文)、初回投稿から最終判定までの平均審査日数は、約89日となるそうです。

### 「出版倫理」と 「新興国のジャーナル運営支援」

今回は基調講演として、「出版倫理」と「新興国のジャーナル運営支援」のそれぞれをテーマにした2つの発表がありました。出版倫理については、COPE (出版倫理委員会) より、不正論文を未然に防ぐために、CrossCheck (剽窃検知ツール) やガイドラインを有効利用することの重要性について説明がありました。新興国のジャーナル運営支援については、「The New England Journal of Medicine」編集担当より、過去10年間で中国から論文の投稿が劇的に増加したことに対応するために中国のEditorを追加して編集体制を強化したことに加え、アフリカの学会に対して行っている資金や人材面での支援活動についての発表がありました。

### 「Reviewer Locator」機能紹介

機能については、まず、昨年リリースされたオプション機能のReviewer Locator (Web of Science内のデータから査読候補者を査読者選出画面に自動でリストアップする機能。以下RL) が、現在は458ジャーナルで導入されていて、Editorからは「該当者が見つからない時にとっても助かる」「優秀な研究者を探すのに非常に役に立つ」「時間を大幅に節約できる」など、大変に好評を得ているとの報告がありました。また、導入事例として、Canadian Science Publishing社が運営している17ジャーナルでは、RLを使用しても査読受諾率に差は出ないとの調査結果が出されました。もし、英文誌サイトをご利用でRL導入をご検討されている学協会様がいらっしゃいましたら、30日間の無料トライアルがございませぬので、弊社のS1Mサポートセンターまでお問い合わせください。

### ユーザーインターフェイスの刷新

今回のカンファレンスで目玉の1つだ



## より使い易く インターフェイス が変わります！

投稿画面の変更点を  
一部ご紹介します



った「投稿画面の変更」についても詳しく説明がありました。現状では9月で予定されており、ユーザビリティの向上を追求したい多くの改善が反映される予定です。上記で変更内容の一部をご紹介します。

今回のカンファレンスは新機能等の紹介がメインとなり、日本でご利用の皆様より一足先に情報を得ることができました。ここでご紹介していない機能もございませぬので、リリース内容が確定した際にまたご紹介いたします。

#### 投稿画面全体

- 表示される文字サイズが大きく。
- 必須項目の表示が誰にでもわかりやすいように「req」から「\*」に。
- 左の投稿ステップメニューが、縦スクロールすると下までついてくるエレベーターメニューに。
- タイトルやカバーレターなど文字数制限が設定されているフィールドでは、現在の入力文字数をカウントして表示。

#### Step 1: 題名、種別、要旨

- 論文種別によって、キーワード、アブストラクトの文字数、設問内容などが切り替わる設定のサイトでは、先に論文種別の選択欄のみが表示され、入力順の誤りにより設問の回答内容が消失を防止。

#### Step 2: キーワード

- キーワードリストを登録しているサイトでは、テキスト欄に1文字以上入力すると自動的に候補の値が表示され、入力の手間が軽減。

#### Step 3: 著者

- 共著者の入力欄では、まずメールアドレスの検索フィールドのみが表示され、サイト内の登録を確認してから入力することになり、重複ユーザーアカウントの作成を防止。
- 所属機関の入力欄は、研究機関を管理するサービス「RingGold」の登録データが参照され、誤入力や、同一機関における表記の不統一といった問題を防止。 ※英文誌サイトが対象となります。
- 著者の順番をリスト内でドラッグするだけで簡単に並び替えが可能に。

#### Step 6: ファイルアップロード

- ポップアップ画面上に入力していた図表の説明が、ファイルの指定と同一の画面上で入力が可能に。

### 開催予告 第4回

## SCHOLARONE MANUSCRIPTS 今秋開催！ ユーザーカンファレンス



2012年に開始しました国内のS1Mご利用ユーザー様向けの「ScholarOne Manuscripts ユーザーカンファレンス」も今年で4回を迎えます。本紙では伝えきれない情報や、新しいインターフェイスの紹介など、只今プログラムを鋭意編成中です。ぜひ取り上げて欲しいというトピックなどございましたら、杏林舎のScholarOneサポートセンターまでご意見をお聞かせください！お待ちしております。

**ぜひご参加ください！**

2015年5月15日～18日、国際科学編集者会議(CSE: Council of Science Editors)のAnnual Meetingがアメリカのペンシルベニア州フィラデルフィアで開催され、今年も2名のスタッフが参加しました。

### ジャーナルのグローバル化と質の向上が話題に

多数のセミナーが開催される中、ジャーナルのグローバル化に関するものが最も注目を浴びていました。より良いジャーナルを作るためには、世界中から優れた論文を集める、つまり、グローバル化を目指すことが不可欠であるという一致した意見が聞かれ、各ジャーナルにおけるグローバル化推進の為の方策に関する発表がありました。発表を行ったジャーナルの編集担当者や編集委員長は皆、より国際性豊かなジャーナルを目指すための第一段階として、編集委員会のグローバル化に取り組んでおり、世界の各地域から編集委員を招聘し、国外の編集委員の割合が50%になるよう努力しているとの事でした。また、より良い論文を採用するためには、多様な国々からの論文の投稿を増やす必要があり、そのためには「ジャーナルの質の向上」が不可欠であると、発表者は共通して主張していました。「ジャーナルの質」とは、掲載論文のImpactや話題性だけではなく、査読のスピードや査読コメントの内容といった「査読の質」も含まれます。そのため、編集事務局における業務の効率化に加えて、編集委員や査読者に対して査読に関する教育や指導を行っているとの発表もありました。これまでのCSEミーティングでは著者による不正の防止と対応がメインのトピックでしたが、今回はジャーナルのグローバル化と「ジャーナルの質の向上」が話題を呼んでいました。なかでも「査読の質」に関心の対象が移りつつあることを発見できたのは収穫でした。



### 実務に関する知識を深める「ショートコース」にも参加

世界的に注目されている大局的な話題を取り上げた「セミナー」に加え、実務に焦点を当て、編集者が自らの経験に基づいた考えや知識を共有する「ショートコース」も開催されます。今回参加した「Short Course on Publication Management」では、効率的なジャーナル運営をテーマとして5名の編集者が発表を行いました。サーバー上にあるジャーナル関連のデータが消失したらどうするか。恐怖の体験談が語られたかと思えば、ジャーナル出版におけるフローの改善に専門的に携わっているProcess Improvement Managerによって、論文の採用から掲載まで、自身が実践している効率的な出版フローの紹介がありました。また、編集事務局が、編集委員、著者、査読者と円滑にコミュニケーションを取るコツ、そして、彼らが日々どのようなことを考えているのか等、彼らの本音を紹介するなど、編集者の誰もが知りたい有益な情報が発表されました。最も印象に残ったのは、編集委員の負担を軽減するための工夫についての発表でした。編集委員は、本業に加えて編集業務を担っているため多忙であり、相当な負担を強いられている。少しでもその負担を軽減できればと、査読者の探し方や査読なしで自身の判定のみを送付する際の例文等を記載した「ハンドブック」、担当論文数、最終判定を出すまでの所要時間、採用した論文が引用された回数等を他の編集委員と比較できる「レポート」を考案したという具体的な話があり、参加者の熱心にメモを取る姿が見られました。今回のCSEミーティングで得た情報や知識は、日本で開催するユーザーカンファレンス等で皆さまと共有させていただきます。今後杏林舎が開催するイベントに是非ご参加ください。

# ジャーナルの「グローバル化」と「質の向上」

## 医総会に杏林舎ブース出展

京都で開催された「第29回日本医学会総会 2015 関西」に4月10～12日の3日間出展しました。



「日本医師会雑誌」「日本内科学会雑誌」「糖尿病」「日本消化器病学会雑誌」「アレルギー」「日本皮膚科学会雑誌」など、雑誌を手にとられた先生方にお声を掛けてチラシをお配りし、電子書籍サービス「KaLib」や「日医 Lib」を紹介しました。

### 杏林舎ならではのブース展示

医学会総会は多様な領域の先生方が来訪されるため、少しでも多くの方に杏林舎を知っていただけるようなインパクトあるデザインとしました。

ブース右半分は、杏林舎が作成に携わっている多くの学会誌を陳列することで歴史と実績を表現し、左半分には、電子書籍サービス「KaLib」を利用しているジャーナルの本棚画面を展示し、新しい技術への対応力を表現しています。

多様な分野の雑誌を陳列したことにより、

電子書籍サービス「KaLib」について伺うと「もう使っています」というご回答がある一方、「どうやったら使えるの?」と興味を示され、その場でインストールされた先生もいらっしゃいました。また、この総会が開催された4月にKaLibに登録された方の数は今年に入ってから登録された総数の30%を占めるなど、利用者数を大幅に延ばすことができました。

### 編集後記

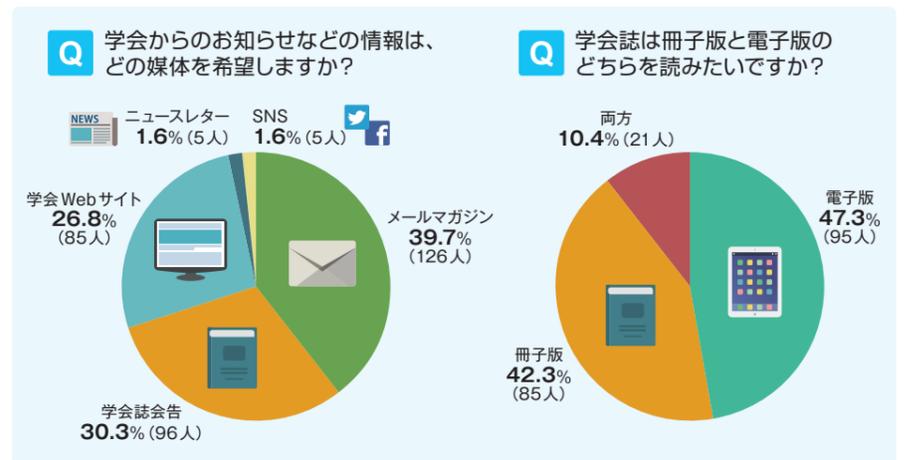
今号では、海外および国内で開催された各種イベントへの参加/出展についてご報告しました。私は、SIM User Conference 2015に参加しまして、SIMの現在の利用状況や今後のバージョンアップ情報、また海外のユーザーによる事例紹介やSIMへの要望など、多くの話を聞くことが出来、大変有意義なカンファレンスでした。SIM新機能紹介の中で、「Collaboration」というオンライン編集会議機能についての説明がありました。これは日本でも何件かの学協会様からご要望をいただいていた、実現が待たれている機能です。すぐにも搭載して欲しいところではありますが、使いづらいものをリリースしたくないという開発側の強い意志もあり、その仕様について、参加者に議論してもらい意見を集めるなど、慎重に開発を進めているようです。実現にはもう少し時間がかかりそうですが、進展の情報が入りましたら、またご紹介させていただきます。さて、日本でもSIMユーザーカンファレンスを開催します。10月を予定してまして、より良いものとするべく鋭意準備中です。是非ともご参加をお待ちしております。(鳥海 英夫)

**S1M NEWS**  
2015年6月30日発行 第7号

発行 株式会社 杏林舎  
〒114-0024 東京都北区西ヶ原3-46-10  
TEL. 03-3910-4311 FAX. 03-3949-0230  
URL <http://www.kyorin.co.jp>  
編集・制作・デザイン 株式会社 杏林舎 (s1mnl@kyorin.co.jp)

©株式会社 杏林舎 本誌掲載の記事・写真・イラストレーション等の無断転載を禁じます。

次号 2015年9月発行予定



### アンケートに見る「会員の声と学会誌の未来」

ブースに来訪された先生方には、アンケートにご協力いただきました。ここで結果の一部を紹介いたします。

#### 情報の入手はメールが一番!

「学会からのお知らせなどの情報は、どの媒体を希望しますか?」という設問では「メールマガジン」との回答が約40%を占めました。「速報性がある」「情報が蓄積・保管出来る」といった点が先生方には好評のようです。

#### 冊子版も意外に需要がある!

「学会誌は冊子版と電子版のどちらを読みたいですか?」との問いには、学会誌については電子版が5%ほどリードした結果ですが、まだまだ紙の需要があることを示す結果となりました。

なかには、「学会誌がペーパーレスになった場合は、学会の退会を考える」といったコメントもあるなど、学会誌の冊子版の必要性を考えるきっかけやペーパ

ーレスのデメリットを知る機会にもなりました。

#### 電子版のメリット?

学会誌の冊子版の一番のデメリットに“保管”を挙げる先生が多くいらっしゃいます。保管場所に限りがあるため、一定の期間を過ぎた雑誌は処分しますが、そうした雑誌に限って後から必要になるそうです。また、気になる記事をスキッピングして保管している先生もいらっしゃり、保管方法に電子版の大きなメリットがあることがわかりました。

その他にも、インターネットでどのように論文を検索するか、論文投稿時に苦勞する点、投稿先を選ぶ基準など、先生方の声や学会への期待について知る機会となりました。

詳細は後日、弊社Webサイトにて公開いたします。アンケートに関するご質問や、ご意見・ご要望等がございましたら、ぜひお問い合わせください。

杏林舎では、学協会様・会員様の問題や課題を解決するために適切なサービスをご提案・ご提供してまいります。

